

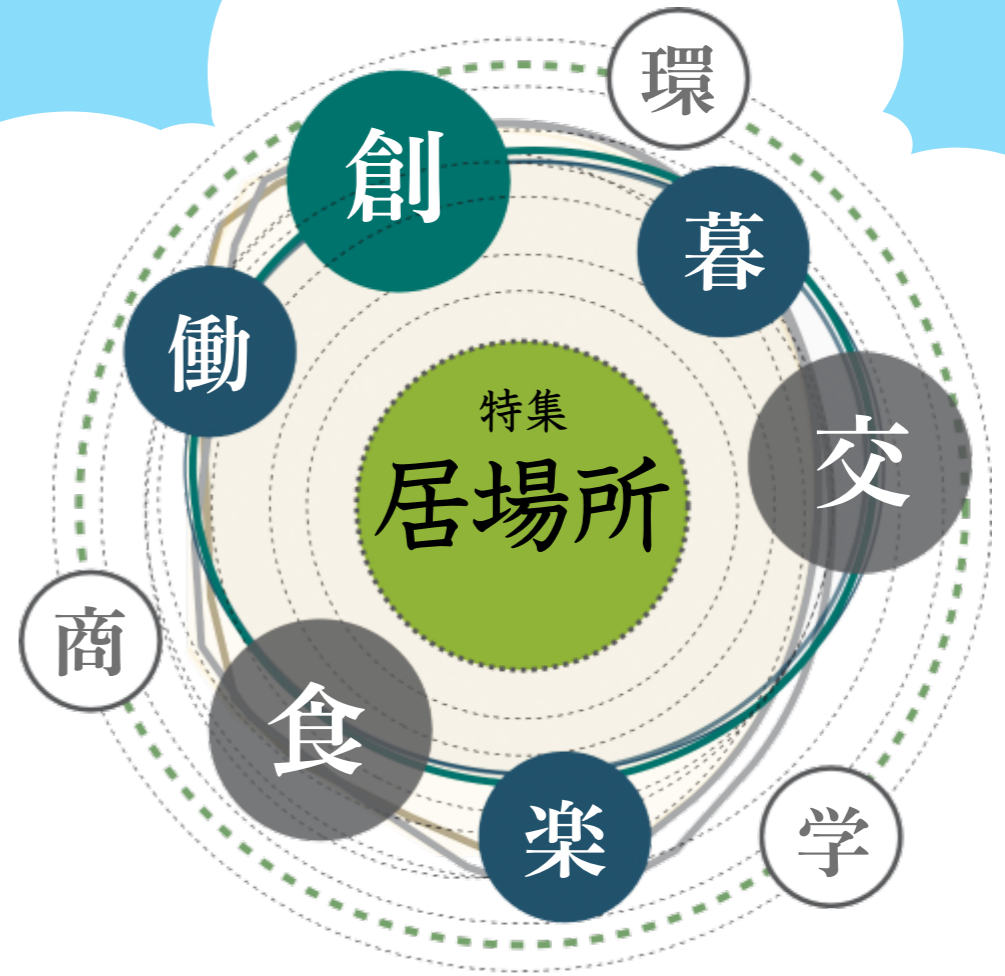
有識者に聞く、 駅周辺まちづくりの今後。

小さなきつかけでも
まちは変わるものです。
まちは人をつなぐメディア。
将来創られていくまちが
皆さんの居場所となるよう、
地域一体で検討が進むことを
期待しています。



北山 孝雄 氏
日本の都市計画家、商業コンサルタント、デザイナー、プロデューサー。どんな生活を実現したいのかを発想の原点に、人を軸にしたまちづくり、暮らしづくりを全国各地で手掛ける株式会社北山創造研究所代表。本市のまちづくり支援業務にも携わる。

昨年8月に那須塩原駅周辺の空間イメージを公表し、具体的な検討が動き出した「那須塩原駅周辺まちづくり」。ランドデザイン会議のボードメンバーであり、市のまちづくり支援業務に関わってきた北山創造研究所代表の北山孝雄氏から、駅周辺まちづくりの方向性に関して話を聞きました。



今、多くの人々は「居場所」を求めている。
自宅と職場を往復するだけの日々では、
知らぬ間にストレスがたまってしまっていることもある。

美味しいものを食べる場所。
仲間との交流を楽しむ場所。
新しいことを学ぶ場所。
楽しく楽になれる場所。
居心地の良い場所。

多くの人が居心地の良い
第3の居場所(サードプレイス)を必要としており、
街中のカフェや居酒屋などがその役割を果たしてきた。

若者なら勉強に集中する場所が欲しい。
大人なら肩の力を抜いて息抜きし、
新しいアイデアや頭の中を整理する時間が欲しい。
仕事を引退した高齢者なら
何かに熱中できる居場所が欲しい。

まちには「居場所」が必要だ。
那須塩原駅周辺まちづくりは「居場所づくり」。
今回は、「まち」と「居場所」に関して考えたい。



※那須塩原駅周辺まちづくりランドデザイン会議：那須塩原駅周辺まちづくりプロジェクトの賛同者で構成し、まちづくりの具体化に向けて、専門的な見地から総合的な構想を議論し、提言することを目的とした会議体。第1回会議を昨年10月18日に開催。

■ランドデザイン会議を受けてどの
ようなことを感じましたか。
ボードメンバーの皆さんは、全国で
さまざまな都市開発事業に携わられて
きた方々です。第1回目の会議は、お
おのの知見をもとに那須塩原駅周辺
をどのように開発していけば那須地域
にとって最善策なのか、非常に広い視
点で本質的な話ができたと感じます。
全部で5つの提言としてまとめられ
ていますが、話を一言でまとめるとす
るなら「この事業は、那須塩原が持続
可能なまちとなるためのチャンスであ
り、個性と独自性を生かした方向性で
まちづくりを進める視点が必要ではな
いか」という話でした。

■チャンスという言葉がありました
が、どういう意味でチャンスなの
でしょうか。
全国の各都市の新幹線駅前を見てみ
るとどうでしょうか。どこも周辺に高
いビルが建っていて、広いロータリー
や道路などの車道空間が整備されてい

て、どことなく同じような街並みをして
います。土地の利回りを上げるとな
れば建物を高くするのは当たり前の話
なのですが、これによってまちは「個
性」を失ってしまいました。一貫性のある
まちづくりの絵を描こうにも、どうに
もならないまでに整備が進んでしまっ
ていることが多いんですね。
一方、那須塩原駅周辺を見てみると、
東京近郊の新幹線駅周辺としては土地
の利活用の伸びしろが大きく、駅を降
り立った際に見える那須連山の景観な
ど個性も併せ持っている点で、非常に
ポテンシャルがあるエリアだと考えて
います。

■「まちづくりにおいて個性と独自性
を生かす」とは、具体的にどんなイ
メージでしょうか。
「他のまちにはない強みを創る」とい
うことに尽きるんだろうと思います。
会議では、「駅から見た那須連山の山
並みなど景観の素晴らしさが強みの一
つである」といった話題になりました。

